

土壌動物と環境

神戸高校総合理学科2年 内野智樹 川村昂史 高見しずく 南原尚子 武馬胡桃 山崎哲

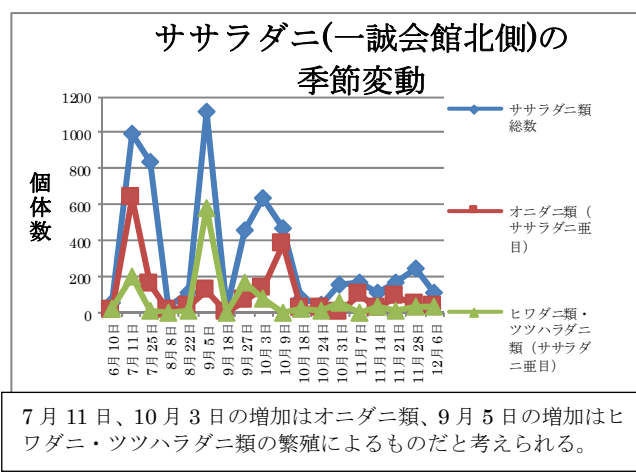
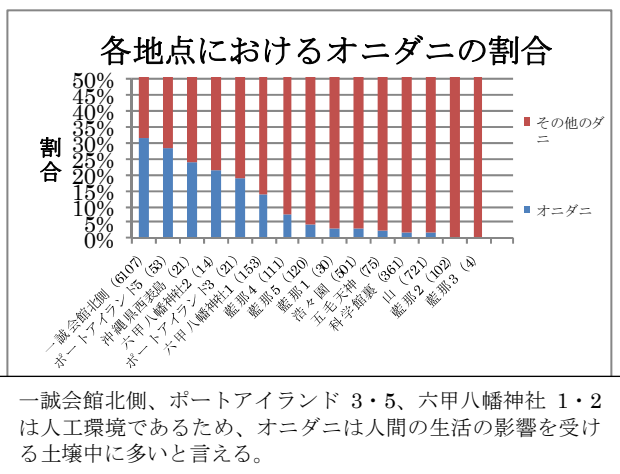
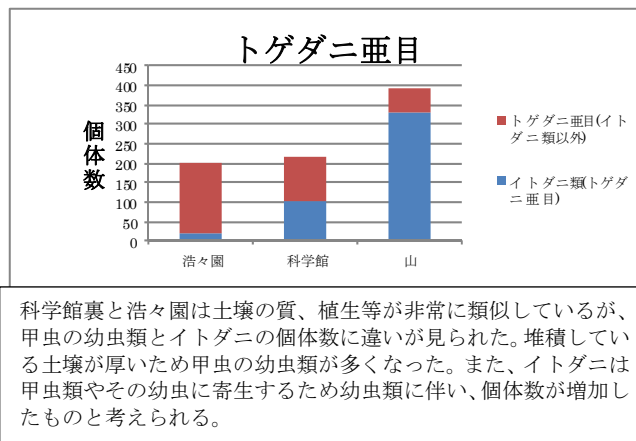
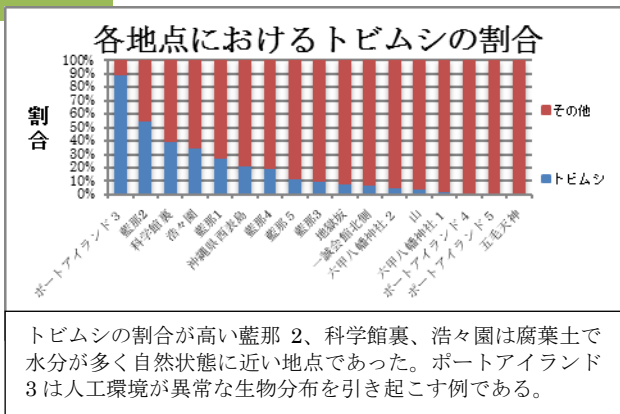
目的 神戸高校を中心とした神戸市内各地点の土壌動物の組成を調査し、環境との関係を明らかにする。

方法 神戸高校内4 地点（科学館北側、一誠会館北側、浩々園、摩耶山登山道入り口）を定点とし、神戸市内各地点でのべ79回採取した。土壌約450mlをツルグレン装置にかけ、土壌動物を抽出した。エタノールで固定した生物を双眼実体顕微鏡で観察し、分類群ごとにソーティングならびに計数を行った。また、個体数が最も多いダニ類については科ないしは目のレベルで同定・計数を行った。土壌温度、湿度、pH、植生についても調べた。

採集地点



結果



考察

土壌動物は昆虫などと同様に主に夏に繁殖期を迎え個体数が増加するが、他の生物から捕食等の影響を受け直ちにその個体数は減少していると考えられる。秋から冬にかけて個体数の減少は見られるが、全くいなくなるわけではないことが分かった。ダニやトビムシなどの土壌動物はわずかな環境の違いでもその種組成が大きく異なっていることが分かった。土壌動物の種組成の違いからも人間の活動の影響が甚大であることが分かった。